

備を利用する。フツンの上げ下ろしをやめるためにベッド式にする。西洋流のベッドでなくて、畳に似合うようなものにする。案内されなくても浴場に行けるよ

仕事ではよく旅をします。もともと旅と云えるかどうか、大抵忙しい駆け歩きですから。注文をつけるのも「女のひがみ」と云はれることが多いよう気がひけます。でもこの頃は女の一人旅も増えたときですから、気になることは云ってみたいと思います。

まず旅館のこと。今も昔も女の一人旅は歓迎されないようです。殊にこの頃のように年中、バス等の団体客が増えたのでなおのこと。

なるべく小じんまりした宿を探すのに苦労します。なぜ旅館はどこもあんなにデラックスになるのでしょうか。四国のある小都市に紹介されて泊ったの

### 観光と一言

## 旅の宿で

いまなお印象に残る、あの宿の赤緋の元祿袖「ゆかた」……

河上洋子

うなわかりやすい間取りとし、所要所要に方向指示板をとりつける。また料理はわざわざ遠方から取りよせた材料でなくて、その土地でとれるものを使えばよ

は、昔の旅人宿のように古めかしい建物でしたが、部屋はきちんと鍵がかかると、トイレは水洗に改造されてい

ました。ある観光ホテルに泊ったとき、部屋の鍵がガタガタだったことを思いながら、この古い宿が必要な点はきちんと改められていることを清々しく思ったのです。

それから又、宮崎市の宿で。——赤い緋の元祿袖の「ゆかた」を出してくれたのが風景よりもなお心に残りま

す。それもやや長目のつい丈でした。どの宿に行っても筒袖の男物が味気なくたたまれておいてあるのがこれまでの私の経験だったからです。

たまに女物のゆかたが出て、おはしよりつきの長い丈では、洋服で旅をする私にとって、余分の紐の用意がある筈もなく、そえられた一本の紐で、たくしあげようもない長いゆかたに苦労するのです。

次に女中さんのこと。この春、対馬の宿で、女中さんが何となくおっかな

くしてその宿を逃げ出したことがありま

す。今思えば、その人のさっぱりした人柄だったのかもしれないが、六時間余の荒波を越えて知らない島の町にたどりついた時は、何と云っても係の

女中さんが頼りでした。ところが、夕食をとる時も、二度も三度も顔を出して、「もうお済みですか」と催促されるし、その夜紹介していただいた方を尋ねると、出かける私達に「早くお帰りを」に切口上。(にきこえました)

忙しく、きつい女中さんの仕事に相当理解もっているつもりでしたが、どうも早く勤務を終りたい気持ちの現れのように心が冷えました。もともと「言葉」ということに人一倍気がまわる貧乏性の故でしょうか。ついでにもう一つ気になることがあります。ある先輩が「その土地のことを宿の女中さんにきくな」と云ったことがあります

が、知らない土地の馴染まない宿ではつい気弱く、土地の名所旧蹟や、名産などをきいてしまうことがあります。

その時、的確な返事をあてにはしないのですが、やはり十分にはしない案内をしていただくことは少いようです。

女中さんの大部分は他所から来た人々であれば無理もないかと思えます。けれどももったい意味の職業意識を身につけて、知らない土地のことも勉強して教えてくださったらと思えます。

その説明もバスのガイド調でない、素朴な。ほんとうの土地のよさを知りたいのです。

宿のことばかりで終ってしまいそうです。ほんとはもっと全般的に気になることは沢山ありますが、注文をつけ

い。土地の農家などで昔から作っている郷土料理などを出される方が、全国どこでも同じものを食べさせられるよりも、よほどうれしくいつまでも楽しい思い出となるものである。しかもその方が安く上る。同じことはみやげものについてもいえる。全国一律のみやげものよりも、その地方の特有民芸品がよい。こけしは東北だけで売るのがよい。肥後そうざん、天草さらざ、人吉のきじ車と香箱、山鹿の金どろろろ、木の葉ざるなど熊本にすぐれた民芸も多いが、これらをさらに改良し、また地方材料による新しい民芸も開拓したいものである。また売られて

いるエハガキがよくない。特に色が悪い、このごろはカラー技術がずいぶん進歩しているのに、なぜあんな黒白写真に彩色したようなものしか売っていないの

だろう。レンズなしで立体的に見える実体鏡エハガキを売れば、阿蘇の原野の印象をさながら人に伝えることもできる

う。それは二枚続きのエハガキでさえあればよい。球磨の臼太鼓踊りや阿蘇の虎舞も面白いものだから、簡便に見せるようにしたい。

### これからの課題として……

私はいろいろの提案をした。それは、郷土の自然を知りかつ愛する心から出発すべきことにつきる。一人一人がその心をもつことはそうむづかしくはなかる

## 陸と海にかけ る開発プラン

△宇土郡三角町▽

島原・天草・八代への定期航路の起点。国際観光ルートの要衝。年間三百万をこゆる観光客。三角町の観光は、天草架橋ブームで一段と活気づくだろう。その日のためにも思い切った観光開発が望まれている。過去二カ年にわたって観光診断を行ない、そして今年、日本観光協会に三角町観光都市マスタープランを依頼して大体の計画案はまとまった。これによると、最大の問題は駅及び駅前広場、駐車場の一大整備にかかっている。

他に、三角岳のケーブル、大水族館、水上ホテル、磯山一帯の公園化など町の地形を高度に生かした総合開発が考えられている。遊覧船による島めぐり。大田尾・若宮の海水浴場。磯釣り・沖釣り。陸と海との接点における、バラエティに富む観光基地への期待がいよいよ高まってきている。

## めざす「新産都市レクリ基地」

△天草郡大矢野町▽

昭和四十一年の天草架橋完工が目前に迫って大矢野町観光は急に活発化した。

「新産都市のレクリエーション基地」をめざす森町長の構想は遠大だ。現在、島の大雲山に展望台ができて、雲仙、不知火海が眼下に広がる。この展望台を二号橋際にも建設する計画だが、島の風光美は何といっても観光の一枚看板らしい。

レクリエーション施設として、十二万坪のゴルフ場の建設、植物園、水族館、天草四郎の記念碑、駐車場の設置等々計画は豊富。千束蔵々島には装飾古墳群、湯島には高山右近の遺蹟など、文化財の保護にも力を入れ観光資源として生かしたいという。観光基地としてこの町で問題になるのが水。将来の水不足に備えて、緑川から遠路、水をひく計画がある。宇土半島を走らせ、更に架橋の下を潜らせる送水計画はいかに奇抜であり雄大である。

## 温泉と海洋美と

△天草郡天草町▽

天草町の観光といえば、何はさしおいても下田温泉と外海の壮大美。東支那海につながる天草灘の夕映えは、頼山陽の